

学校法人塚本学院
大阪芸術大学グループ
ビジョン2030



contents

目次	1
ごあいさつ	2
塚本学院の使命およびビジョン	3
塚本学院の沿革	4
[理念およびビジョン2030]	
大阪芸術大学	5
大阪芸術大学短期大学部	9
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	11
大阪芸術大学附属幼稚園	13

ごあいさつ



学校法人塚本学院 大阪芸術大学
理事長・学長・学院長 名誉文学博士
塚本 邦彦

学校法人塚本学院・大阪芸術大学グループは、創設者の塚本英世初代理事長・学長により、わが国の新しい時代を切り拓くための原動力となる教育の普及を志して1945年（昭和20年）に創立されました。外国語教育に始まり、社会の発展と安定に寄与できる人材の育成を目指して様々な教育機関を創設し、現在では大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校、4つの附属幼稚園を擁する総合教育機関として、芸術を核に幅広い教育活動を展開しています。

このたび公開する「大阪芸術大学グループ ビジョン2030」は、「ビジョン2025」に引き続き、創立85周年となる2030年に向けた中期構想として策定したものです。大学・短期大学部・専門学校・幼稚園のそれぞれの建学の精神や教育理念を新たな視点から見つめ直し、あるべき将来像の実現に向けて5年間の基本的指針を取りまとめました。

未来の予測が困難な社会にあって、教育機関を取り巻く状況もさらに複雑化していくものと思われますが、どのような時代においても、「学び手のためになるのか、ならないのか」という本学院の行動基準が揺らぐことはありません。この原点を今一度しっかりと再認識し、これまで積み重ねてきた80年の歴史と伝統にたゆまぬ革新を融合させながら、この「ビジョン2030」を掲げて一歩一歩力強く進んでまいります。

学校法人塚本学院の使命

本学院は、知と愛の精神に基づく「学」と「芸」の教授と研究を通して、心身ともに健全で社会に新たな息吹をもたらす人材を育成し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを使命とします。

学校法人塚本学院のビジョンと思い

社会と未来に求められる教育機関

本学院は、戦後の混乱期において外国語教育の需要に応える「平野英学塾」として創立されて以来、常に時代の要請に応え、子どもたちの教育環境を向上させる保育・幼児教育、さらにはわが国の本格的な復興に不可欠な芸術教育に取り組んできました。芸術に立脚しながら多領域の教育を実施し、様々な分野で活躍する有為な人材を輩出しており、その時代に資する新たな価値を広く社会に提供しています。

少子高齢化の進展で「人生100年時代」を迎え、DX導入が進み、持続可能性や多様性の重要性が叫ばれるなど、時代の変化が加速を続ける現在、あらためて社会を生き抜く力が問われています。その礎となる素養を培うべくさらに教育力を高め、より積極的に社会実装に努めて、これまでにない価値を創造・発信していくことが、本学院の重要な役割であると考えます。

このような背景と社会的使命をふまえた新たな学びの場として、本学院は2026年（令和8年）に大阪医療大学（仮称）の開設を構想しています。誰もが健康と長寿を享受し長く活躍できる社会の実現に向けて、理学療法学科と看護学科の設置を予定。人生100年時代を支える医療人を少数精鋭教育で養成し、健康医学や医療DXの発展に寄与して、地域や社会へのより直接的な貢献を目指します。

80年の歴史に新たな一步を刻む大学新設のプロジェクトをはじめ、これからも多面的に社会と連携してより良い未来を構築できる人材の育成に取り組み、次代の担い手から求められる教育機関を目指して、さらなる進化と挑戦を続けてまいります。



沿革

- 昭和20年(1945) 初代理事長・学長故塚本英世により、平野英学塾創設。
- 昭和21年(1946) 財団法人浪速外国語学校(3年制)を創立。平野英学塾を發展的解消。
- 昭和26年(1951) 浪速外国語短期大学英语科及び学校法人浪速外語学院を設立。
- 昭和27年(1952) 大阪幼稚園教員養成所を設置。
- 昭和28年(1953) 浪速外国語短期大学附属幼稚園を設置。
- 昭和29年(1954) 浪速外国語短期大学に保育科を増設と同時に、大阪幼稚園教員養成所を發展的解消。
浪速外国語短期大学を浪速短期大学に改称。巡回保育青い鳥幼稚園を開始。
- 昭和30年(1955) 浪速短期大学に通信教育部保育科を増設。
- 昭和32年(1957) 大阪美術学校(各種学校)を設置。
- 昭和33年(1958) 浪速短期大学附属照ヶ丘幼稚園を設置。
- 昭和34年(1959) 大阪市東住吉区矢田に法人本部を移転。
- 昭和35年(1960) 浪速短期大学にデザイン美術科・広報(マス・コミュニケーション)科を増設。
- 昭和37年(1962) 浪速短期大学商業科・デザイン美術科に専攻科を増設。
- 昭和38年(1963) 浪速短期大学通信教育部にデザイン美術科・広報(マス・コミュニケーション)科を増設。
- 昭和39年(1964) 浪速芸術大学芸術学部美術学科・デザイン学科を設置。
- 昭和41年(1966) 学校法人浪速外語学院を学校法人塚本学院に改称。浪速芸術大学を大阪芸術大学に改称。
- 昭和42年(1967) 大阪芸術大学芸術学部建築学科・文芸学科を増設。
- 昭和43年(1968) 大阪芸術大学芸術学部音楽学科・放送学科を増設。浪速短期大学附属金剛幼稚園を設置。
- 昭和44年(1969) 大阪音楽センターを設置。
- 昭和45年(1970) 大阪芸術大学芸術学部写真学科・工芸学科を増設。大阪芸術センターを設置。
- 昭和46年(1971) 大阪芸術大学芸術学部環境計画学科・音楽教育学科・演奏学科・映像計画学科を増設。
- 昭和47年(1972) 大阪音楽専門学校(各種学校)を設置。米国美術大学連盟加盟校との夏期特別セミナー(第1回)開講。
以後、毎年本学及びカリフォルニア美術工芸大学等を会場として交互に開講。
第1回日韓3大学デザイン美術交流展開催。以後、大阪及びソウルを会場として開催。
- 昭和48年(1973) 大阪芸術大学芸術専攻科(美術・デザイン・建築・文芸・音楽各専攻)を設置。
- 昭和49年(1974) 大阪芸術大学芸術学部舞台芸術学科・芸術計画学科を増設。
- 昭和50年(1975) 学院創立30周年記念式典を挙行。
- 昭和53年(1978) 大阪芸術大学芸術専攻科(写真・工芸・音楽教育・演奏各専攻)を増設。
大阪音楽専門学校(各種学校)を大阪芸術大学附属大阪音楽学校(各種学校)に改称。
- 昭和56年(1981) 大阪美術学校(各種学校)を大阪芸術大学附属大阪美術専門学校(専修学校)として設置。
塚本英世記念館芸術情報センターを設置。
- 昭和57年(1982) 大阪芸術大学・浪速短期大学附属泉北幼稚園を設置。
- 昭和60年(1985) 学院創立40周年記念式典を挙行。
- 昭和61年(1986) 大阪芸術大学芸術学部映像計画学科を同映像学科に名称変更。浪速短期大学伊丹学舎竣工。
- 昭和62年(1987) 第1回日中交流作品展を上海で開催。以後、隔年に大阪と上海で開催。
学校法人塚本学院白浜研修センターを設置。
- 平成 4年(1992) 学校法人塚本学院菅平高原研修センターを設置。
- 平成 5年(1993) 大阪芸術大学大学院芸術文化研究科(修士課程)を設置。
- 平成 7年(1995) 学院創立50周年記念式典を挙行。大阪芸術大学大学院芸術文化研究科(博士課程)を設置。
- 平成 9年(1997) 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科(修士課程)を設置。
- 平成12年(2000) 浪速短期大学を大阪芸術大学短期大学部に名称変更。
- 平成13年(2001) 大阪芸術大学通信教育部を設置。
- 平成14年(2002) 大阪芸術大学博物館を設置。
- 平成15年(2003) 大阪芸術大学芸術学部環境計画学科を環境デザイン学科に改称。
- 平成17年(2005) 学院創立60周年記念式典を挙行。
大阪芸術大学大学院芸術文化研究科(博士課程)及び芸術制作研究科(修士課程)を芸術研究科博士課程[前期・後期]に改組。
大阪芸術大学芸術学部キャラクター造形学科を増設。大阪芸術大学短期大学部商業学科を経営デザイン学科に名称変更。
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校にキャラクター造形学科を増設。
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校デザイン工学科を総合デザイン学科に名称変更。
- 平成19年(2007) 大阪芸術大学テレビ開局。
- 平成20年(2008) 大阪芸術大学はたるまちキャンパス開設。
- 平成22年(2010) 大阪芸術大学芸術学部初等芸術教育学科を増設。大阪芸術大学通信教育部芸術学部初等芸術教育学科を増設。
大阪芸術大学短期大学部経営デザイン学科をビジネス学科に、広報学科をメディア・芸術学科に名称変更。
- 平成25年(2013) 大阪芸術大学附属大阪美術専門学校に総合アート学科を増設。
- 平成26年(2014) 大阪芸術大学スカイキャンパス開設。
- 平成27年(2015) 学院創立70周年記念式典を挙行。
- 平成29年(2017) 大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科を増設。
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校総合アート学科をコミック・アート学科に名称変更。

大阪芸術大学

建学の精神

本学は「芸術における総合のための分化と境界領域の開拓を目指す」大学である。近代における学問及び芸術は専門化の一途をたどり、その専攻分野は極端なセクショナリズムにおちいるという弊害がしばしば見受けられるが、本学では伝統の形式にとらわれることなく、伝統の持つ精神を高揚し、新しい芸術を展開しようとしている。たとえば実用的合理性の尊重である。極端な芸術至上主義を排し、産業社会や、日常生活に密着した社会芸術としての性格を強調し、自由に材料の持つ法則とか可能性、あるいは材料と人間との相互の関係を探求して、豊かな創造力を伸ばしてゆくことを本学の方針としている。



自由の精神の徹底

学と芸の総合大学として秩序ある体系の上に自由の精神に基づき、私学としてのみ可能である学科編成をめざして高等教育にエポックを劃したい。

創造性の奨励

本大学芸術学部は芸術における狭義の創造性にとどまらず、科学技術・産業・交通・通信・政治・行政その他社会活動全般にわたり創造性を奨励したい。

総合のための分化と境界領域の開拓

近代における学と芸は、専門化の一途をたどりその専攻分野は極端なるセクショナリズムに陥るという弊害がしばしば見受けられるが、本学はこれを絶対に排し総合のための分化および専門化であることを絶えず確認し、特に境界領域における学と芸の盲点的存在となっている部分を注視し、新分野の開拓につとめたい。

国際的視野に立つての展開

東洋の日本、世界の日本という認識のもとに我国特有の学と芸に関する優れた伝統を国際的視野に立つてこれを深く掘り下げ、伝統の形式に囚われることなく、伝統の持つ精神を高揚して新しい芸術の伝統を展開したい。

実用的合理性の重視

本学は阪神産業地帯をヒンターランドとして開設されている立地条件にかんがみ、学と芸の実用的合理性を尊重してこれを実現したい。



大阪芸術大学のビジョン2030

大阪芸術大学(大学院・通学課程・通信教育部)は、中期構想の8つのビジョンを策定し、総合芸術大学として教育力と社会実装力の充実と強化を図り、次代を生き抜く人材の養成と新たな価値の創造に取り組みます。

■ 1: 自由で柔軟な特色ある教育の推進

建学の精神の冒頭に掲げる「自由の精神」を尊重し、総合芸術大学ならではの学びの多様性と自由度を兼ね備えた特色ある教育をさらに推し進めます。社会人として必要な基礎力や教養の修得を前提としながらも、先端的で独創的な芸術文化の進展に向けて常に教育内容の見直しと改革を実践し、学生一人ひとりが夢や目標に最適化された学びを自ら主体的に獲得できる、自由で柔軟な教育カリキュラムの実現に取り組みます。

■ 2: 未来社会を牽引できる人材の育成

学科やコースの枠組みに捉われないコラボレーションや、産学・官学連携プロジェクト等の取り組みを充実させて、学生の視野を広げ、芸術のみならず幅広い分野に活かせる力の修得を促します。他者と協働し多様な視点や考え方を理解しながら作品制作や課題解決に向かう体験により、創造性・発想力・行動力・主体性・リーダーシップなど、予測困難な時代に求められる素養を涵養し、未来社会を牽引できる人材の育成を目指します。

■ 3: 新領域の開拓および学内の有機的連携

常に時代と社会の変化に迅速に呼应し、新領域や境界領域を積極的に開拓してきた本学の取り組みを引き続き推進し、新たな学問分野にアプローチするとともに、次世代に適合した最新の技術・知識を修得できる教育カリキュラムを構築します。同時に、多様化する学科やセクション間の円滑なコミュニケーションを促進し、大学内組織の活性化と有機的な連携を図ります。

■ 4: 国際的な視野を醸成する学びの拡充

グローバル化と価値観の多様化が進展する社会の将来像を見据え、国際的な視野を育成する学びを拡充させます。アメリカ、ヨーロッパ、中国、韓国など海外の芸術系大学との姉妹校提携によって、短期留学制度や海外セミナー、ワークショップ、交流作品展等を実施しており、これらの国際交流活動をさらに充実させて、人・地域・文化を多面的に理解し共創していく力を養成します。

■ 5: 社会・文化貢献活動や産官学協働による教育の展開

芸術を通じて社会や文化の発展に寄与し、「学」と「芸」の融合によって実社会で求められる能力を磨くべく、学びの成果を広く公開する機会を拡大します。学内外において演奏会、公演、展覧会、作品オークション等を積極的に実施し、技術の向上と芸術による社会貢献を体感できる場を拡充します。また企業や地域と協働する企画等を通じて、社会との接点を持ちながら学びのプロセスと成果を実践的に展開する機会を広げます。

■ 6: 教育環境の整備と向上

専門性と実践性の高い学びを提供できる充実した教育施設・設備を整備しており、今後も学生が安心して快適に学べるよう、教育環境の整備と向上を図ります。熱中症対策や省エネルギーを考慮した空調機器の設置、LED照明の導入、太陽光発電設備による再生可能エネルギー活用、学内緑化等、エコキャンパス化と環境保全を推進します。また2025年に世界各地の動物はく製によるジオラマ展示施設を新設するなど、学生の創造力拡大の一助となる場を創出します。

■ 7: 学生生活の包括的なサポート

学生の学ぶ意欲と夢の実現を支えるための多彩な奨学金制度を用意しており、経済的支援を求める学生の要望により幅広く柔軟に応えるべく、制度の見直しや最適化に取り組みます。またキャンパスライフサポート室を設置して健康相談・心的相談・生活相談等にも対応しており、学生と職員とのコミュニケーションの充実を図って、学生生活をよりきめ細かくトータルにサポートします。

■ 8: キャリア支援活動の充実

卒業後の活躍の場を広げるため、早い段階から就職・キャリア支援プログラムを作成し、幅広い進路サポート活動を展開しています。企業就職、教員、作家・創作活動、大学院進学など多様な進路先への対応、エクステンションセンターによる資格取得支援等を実施し、進路状況や学生の要望に応じてさらなる見直しと強化に取り組みます。



大阪芸術大学短期大学部

建学の精神

大阪芸術大学短期大学部は、日本国憲法の精神に則り、私学の本分を尽くし、世界の平和と人類の福祉に貢献することを目的とする。また、広く知識を求めて学術の研究に励み、専門的技術の習熟に努め、もって心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

本学の理念

1) 人間尊重の精神

創設者塚本英世初代理事長・学長は、「人の心に愛を産みつけることのできる教育」を目指した。この人間尊重の精神は、青空子ども会、青い鳥幼稚園、そして幼児教育への取り組みへと受け継がれ発展してきた。

2) 外国語教育と国際化への視座

戦後の英語教育の重要性が、本学創設の原点である。外国語を学ぶことを通して、世界の文化、歴史、社会への理解を深めるとともに、国際交流を精力的に推進している。

3) 実学と学問の有用化

社会に貢献できる人間を育成するために、時代の変化に伴って、本学の学科は増設されてきた。各学科においては、一般教養による人格の陶冶とともに、専門教育による有用な知識や技術の習熟を目指している。

4) 自由の精神の徹底

自由の精神を徹底することにより、豊かな創造力を伸ばすとともに、明るく活発で進取の気性旺盛なスクールカラーを生み出している。

5) 芸術との出会い

芸術教育及びその実践を通し、既成の価値観を乗り越える創造性を奨励するとともに、感性と理性との調和した豊かな人間性の涵養を図っている。



大阪芸術大学短期大学部のビジョン2030

大阪芸術大学短期大学部は、中期構想の7つのビジョンを策定し、総合芸術短期大学部として幅広い領域の強みを生かした教育力のさらなる向上を図るとともに、地域や社会との連携を通して、次代を生き抜き新たな価値を発信し活躍できる人材の育成に取り組みます。

■ 1: 自由で柔軟な特色ある教育の推進

総合芸術短期大学部ならではの学びの多様性と自由度を兼ね備えた特色ある教育をさらに推し進めます。社会人として必要な基礎力や教養の修得を前提としながらも、先端的で独創的な芸術文化の進展に向けて常に教育内容の見直しと改革を実践し、学生一人ひとりが夢や目標に最適化された学びを自ら主体的に獲得できる、自由で柔軟な教育カリキュラムの実現に取り組みます。

■ 2: 未来社会を牽引できる人材の育成

学科やコースの枠組みに捉われないコラボレーションや、産学・官学連携プロジェクト等の取り組みを充実させて、学生の視野を広げ、芸術のみならず幅広い分野に活かせる力の修得を促します。他者と協働し多様な視点や考え方を理解しながら作品制作や問題解決に向けた思考力、創造性・発想力・行動力・主体性・リーダーシップなど、予測困難な時代に求められる素養を涵養し、未来社会を牽引できる人材の育成を目指します。

■ 3: 国際的な視野を醸成する学びの拡充

グローバル化と価値観の多様化が進む社会の将来像を見据え、国際的な視野を育成する学びを拡充させます。大阪芸術大学グループとして海外の芸術系大学と姉妹校提携を結び、海外セミナーや交流作品展を実施しており、これらの国際交流活動をさらに充実させて、人・地域・文化を多面的に理解し共創していく力を養成します。

■ 4: 社会・文化貢献活動や産官学協働による教育の展開

芸術を通じて社会や文化の発展に寄与し、「学」と「芸」の融合によって実社会で求められる能力を磨くべく、学びの成果を広く公開する機会を拡大します。学内外において演奏会、公演、展覧会、作品オークション等を積極的に実施し、技術の向上と芸術による社会貢献を体感できる場を拡充します。また地域と密接に連携し協働する様々な企画を通じて、社会との接点を持ちながら修学意識をたかめるとともに学びのプロセスと成果を実践的に展開する機会を広げます。

■ 5: 教育環境の整備と向上

専門的かつ実践的な学びを実現する多様な実習施設を有しており、今後もプロ仕様のテレビスタジオの整備、ネットワークの充実、各種最先端設備の導入等、さらなる教育環境の向上に努めます。学生が安心して快適に学べるよう、老朽化施設を順次改修するとともに、熱中症対策や省エネルギーを考慮した空調機器の設置、LED照明の導入、学内緑化等、エコキャンパス化と環境保全を推進します。

■ 6: 学生生活の包括的なサポート

学生の学ぶ意欲と夢の実現を支えるための多彩な奨学金制度を用意しており、経済的支援を求める学生の要望により幅広く柔軟に対応し、制度の見直しや最適化に取り組みます。また職員と学生とのコミュニケーションを図って健康相談・心的相談・生活相談等にも対応し、学生相談室の運営体制の見直しや整備を推進して、学生生活をよりきめ細かくトータルにサポートします。

■ 7: キャリア支援活動の充実

卒業後の活躍の場を広げるため、1年次から就職・キャリア支援プログラムを作成し、幅広い進路サポート活動を展開します。カリキュラム内にキャリアデザインの科目を設置して職業観の形成や就職活動の意識づけを促すとともに、学生一人ひとりに親身に寄り添って、ガイダンスやセミナー、個人面談などにおいて、①就職、②4年制大学への編入や進学、③創作活動、という3つの柱に対して、指導などの支援を実践し、社会状況と学生の要望に応じてさらなる将来設計の見直しとサポートの強化に取り組みます。



大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

教育理念

- 1) 芸術における自由な精神の尊重を踏まえ、広い視野に立った豊かな創造性を育てる。
- 2) 専攻分野での極端なセクショナリズムを排し、総合的な学問と芸術の両立を確立させる。
- 3) 高度な職業能力を身につけた人材を育成し、社会に貢献することを目指す。



大阪芸術大学附属大阪美術専門学校のビジョン2030

大阪美術専門学校は、中期構想の7つのビジョンを策定し、社会構造の変化に対応しながら独自の行動規範「ビセン7則」に則った教育体制の充実と強化に取り組んで、「学生の夢を実現させ、夢と仕事をつなぐ専門学校」を目指します。

■ 1:「ビセン7則」に基づく教育体制の充実と強化

「学問は、『問』いを『学』ぶ。学生は、『生』きるを『学』ぶ。」をキーワードに、「心づくり(行動規範の明示)」、「顔づくり(魅力の可視化)」、「体づくり(教育カリキュラムの見直し)」に取り組めます。行動規範として定めた「ビセン7則」(①最小の表現で最大の効果を ②ユーモアは魔法の薬 ③語れるモノづくり ④広い視野と小さな視点 ⑤残すものと新しくするもの ⑥わかりやすさの設計 ⑦喜びのバトンをつなぐ)に則り、教育体制の充実と強化を図ります。

■ 2:「APPLE」に基づくカリキュラムの改善

「気づきに気づく」というデザインの本質を学ぶ独自の教育メソッド「APPLE」に即して、まずは体験入学のプログラムの見直しを実践しています。社会課題を発見し、本質を見極め、次代を生き抜く力を育むため、独自の教材開発や授業カリキュラムの改善に取り組めます。また他コース授業の受講や転コースをはじめ柔軟で自由度の高い教育体制の実現、大阪芸術大学グループ校としての海外セミナーや国際交流展への参加など、学生一人ひとりの個性と可能性を伸長させる学びを強化します。

■ 3:社会・文化貢献活動や産学協働による人材育成

「夢と仕事をつなぐ専門学校」として、実社会に即した能力を磨き、芸術を通して社会や文化の発展に貢献できる機会を拡充します。学内外でのコンクールやイベントでの作品発表、産学協働プロジェクトやコンペティション、地域ボランティア活動など、学びの成果を実践的に展開しながら社会と接点を持つ機会を強化することで、社会的な対応力と仕事に対する責任感を高め、技術修得のみならず人間力や高い就業意識も育て、社会に貢献できる人材の育成に取り組めます。

■ 4:教育環境の整備と向上

専門性と実践性の高い学びを提供できる充実した教育施設・設備を整備しており、最新のパソコンの導入等によるデジタル環境の整備、新たな体験型施設の開設計画など、今後もさらに施設や設備の整備を強化します。効率的・経済的で持続可能な施設整備と維持管理に尽力し、熱中症対策や省エネルギーを考慮した空調設備改善、LED照明の導入、老朽化施設の改修工事等を順次実施して、学生がより安心して快適に学べる環境の整備を図ります。

■ 5:質の高い教員の配置とコーチング型教育の推進

2学科10コース13分野を開設し、専門性の高い教員や実務経験豊富な教員など様々な角度から学生の能力向上を図る人材を配置しています。大阪芸術大学附属校の特性をいかして、大学の兼任教員による授業や、業界最先端で活躍するプロを招聘しての特別講義等も実施し、今後も力量のある人材の積極的な採用と配置を進めます。また「ティーチングからコーチングへ」をテーマに、個々の学生の資質やスキルを見極め、それぞれの成長に並走しながら指導する教育アプローチを導入します。

■ 6:学生生活の包括的なサポート

教員・職員が一体となって学生をあたかく見守り、いつでも帰って来れる大家族主義的な専門学校を目指して、各種支援体制を整備します。学びの意欲をサポートする多彩な奨学金制度を実施しており、経済的支援を求める学生の要望により幅広く柔軟に応えるべく、制度の見直しや最適化を行います。また健康相談や心の相談、生活相談等にも対応し、学生生活全般にわたるきめ細やかな支援体制を整備するとともに、外国人留学生に対する相談窓口の強化を進めます。

■ 7:キャリア支援活動の充実

卒業後の活躍の場を広げるため、1年次から就職・キャリア支援プログラムを作成し、幅広い進路サポート活動を展開しています。ガイダンスやセミナー、全員への個人面接をはじめ、ポートフォリオ作成指導、4年制大学への編入学指導など、学生一人ひとりに親身に寄り添って様々な支援を実施し、進路状況や学生の要望に応じてさらなる見直しと強化に取り組めます。



大阪芸術大学附属幼稚園

教育方針

「生きるちから」と「思いやりのこころ」を遊びを通して育み、
のびのびと感受性を磨く保育



松ヶ鼻幼稚園



金剛幼稚園



照ヶ丘幼稚園



泉北幼稚園

大阪芸術大学附属幼稚園のビジョン2030

大阪芸術大学附属幼稚園は、中期構想の4つのビジョンを策定し、大阪芸術大学の附属幼稚園ならではの強みをいかし、グループ間の連携・交流を通して、子どもたちが次代を生き抜く力を培うための有意義で質の高い教育を推進します。

■ 1: 本物体験や子どもの主体性を重視した教育の推進

「本物体験」や「主体的な遊び」をより重視して、子どもたちが自ら興味や関心を広げ、健やかな身体と豊かな心を育みながら、互いを思いやり協力することの大切さを学べる教育を推進します。和の伝統文化を学ぶ茶道、心身の健康向上に役立つ柔道、野菜を育て料理する食育など、「本物」を体感し想像力を刺激する機会を充実させて、子どもたちの主体性や伸びる力を十分に引き出し、幼児期の学びから小学校教育への円滑な移行を目指します。

■ 2: グループ間の連携・交流活動の強化

大阪芸術大学の附属幼稚園として、グループ校の施設・設備・人材などの教育資源を活用した体験活動を促進し、4つの附属園の交流や連携を通して特徴ある活動カリキュラムの強化を図ります。大学教員による音楽指導、大阪美術専門学校教員の指導による作陶体験、タブレット端末体験(泉北幼稚園)、4園合同音楽会、大学の総合体育館での運動会など、質の高い情操教育や身体づくりにつながる多様な活動に取り組みます。

■ 3: 環境整備および保護者や地域との信頼関係構築

子どもたちの健康と安心安全を確保し、より充実した保育環境を実現するため、施設の整備や安全管理に関する取り組みを継続的に実践します。保護者の送迎と一斉降園を基本として保護者との円滑なコミュニケーションを促進し、保護者に対する理解と支援に努めながら信頼関係を築きます。また地域と連携して子育て支援にも貢献し、保護者と地域から信頼される幼稚園を目指します。

■ 4: 未来の教育者の育成

大阪芸術大学初等芸術教育学科と緊密な連携を図りながら、未来の教育者の育成に尽力します。教育実習生への細やかな指導やフォロー等の受け入れ体制を整備して個々の学びと成長を援助するとともに、実習園としての実績と魅力を高め、総合的な教育力の向上と優れた幼稚園教諭の採用につなげます。さらに「先生も子どもも育ちあう園」を目指し、教育者としてのさらなる成長を促します。



学校法人塚本学院 大阪芸術大学グループ ビジョン2030

発行日 2024年7月

編集 学校法人塚本学院法人本部企画広報部

発行 学校法人塚本学院

〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469

電話 0721-93-3781（代表）